

『ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし』（西村書店）刊行記念

アフリカのストーリーテラー ジョン・キラカさんを囲む 語りの会&ミニ交流会



2017年7月刊、1620円（税込）

日時：2017年8月5日（土）

第1部 語りの会 10:30~11:45 会場…都立殿ヶ谷戸庭園 紅葉亭
JR 中央線・国分寺駅南口、徒歩1分

新刊絵本『ごちそうの木：タンザニアのむかしばなし』がどのように生まれたか、アフリカの語りの文化について、来日中のジョン・キラカさんに、本書翻訳者でもある、さくまゆみこさんを聞き手に迎えてお話を伺います。スワヒリ語で一部語っていただきます。

★参加費…800円(茶菓子付き)。定員30名(先着順)。事前におばあさんの知恵袋にて、電話もしくは来店の上、予約を承ります。*別途、入園料120円(団体扱)を、当日、庭園入口で企画担当者にお支払いください。

第2部 ミニ交流会 12:00~13:00 会場…おばあさんの知恵袋

第1部終了後、ジョン・キラカさん、さくまゆみこさんのサイン会&ミニ交流会を行います。

★参加費無料。

ジョン・キラカ (John Kilaka) 1966年タンザニアの南西部スンバワンガに生まれる。幼いころから地面に絵を描くのが好きで、学校に入ると黒板にチョーク全部をつかって絵を描き、友だちには喜ばれたが、先生たちは困っていたという。1987年に、タンザニア最大の都市ダルエスサラームに移り、1990年には、ヴィレッジ・ミュージアムでティンガティンガ派の画家ピーター・マーティン・チャウガンガから絵を学び、独自の画風を確立する。それからタンザニアの村々をまわって昔話を集め、タンザニア、ドイツ、スイスなどでストーリーテリングを行い、3冊の絵本を出版。2005年、ポローニャ国際児童書展にて、『いちばんのなかよし』がラガッツィ賞を受賞。本書が最新作となる。



さくまゆみこ (さくま・ゆみこ) 編集者、青山学院女子短大子ども学科教授などを経て、現在はフリーの翻訳家。著書に『エンザロ村のかまど』（福音館書店）、『どうしてアフリカ？ どうして図書館？』（あかね書房）など。アフリカ子どもの本プロジェクトの代表として、アフリカの子どもの本を届ける活動や、アフリカの文化や子どものことを日本の子どもに伝える活動もしている。訳書は『いちばんのなかよし』（アートン）、「ホーキング博士のスペース・アドベンチャー」シリーズ（岩崎書店）など多数。アフリカ子どもの本プロジェクトの代表として、アフリカの子どもの本を届ける活動や、アフリカの文化や子どものことを日本の子どもに伝える活動もしている。

★問合せ・申込み先 おばあさんの知恵袋（国分寺駅南口、徒歩2分） ☎ 042-324-2708

主催：西村書店 共催：一般財団法人大阪国際児童文学振興財団

協力：おばあさんの知恵袋／新月杓文字社／一般財団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）／岩波書店